

第 2 2 回 豊田市市政顧問会議 < 公表用 >

【日 時】 令和 2 年 8 月 7 日（金）午後 3 時～4 時 3 0 分

【場 所】 豊田市役所 南 5 2 会議室

【出席者】 会 長 奥野 信宏（公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋
都市センター長）

副会長 三宅 英臣（豊田商工会議所 会頭）

委 員 安藤 貴紳（豊田市区長会 会長）

同 石川 尚人（あいち豊田農業協同組合 代表理事組合長）

同 伊藤 葉子（中京大学 現代社会学部 准教授）

同 大橋 一之（愛知県労働者福祉協議会 豊田支部長）

同 桑田 正規（トヨタ自動車株式会社 執行役員）

市 長 太田 稔彦

副市長 安田 明弘

副市長 高井 嘉親

【次 第】 1 開会

2 市長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議事

5 閉会

【議事】

- ・ 第8次豊田市総合計画後期実践計画の策定について

< 主な意見 >

・ まちづくりについては、随分景色が変わってきれいになったが、人の流れを含めて、今一つドキドキ感がない。今後、大型商業店舗や銀行が撤退する話もある。平成 6 年に南開発から始まり、まちづくりのエリアが今 4 つあるが、それぞれのエリアごとに動いているためまとまりがなく、結果的に人が集まらない。今、駅前がまちづくりの一丁目一番地であるため、ここで魅力のあることを考えなければ、まちづくりはうまくいかない。

- ・周辺に大規模テーマパークやリニアができると、人が来るどころか出て行ってしまふ。少しでも豊田市に寄ってもらうための魅力づくりが必要。
- ・新型コロナの影響により、市の都心のまちづくりの考え方の一番のベースである、人が集中するという前提が崩れてしまふ。捉え直しが必要になることが懸念される。
- ・商業施設の魅力向上については、出かけようと思うための魅力をしっかり出していけるとよい。
- ・計画の中で、空き店舗等の遊休資産を生かしたシェアオフィスとなっているが、テレワークやリモートが進んでいく中で、本当に空き店舗に入るのか疑問。
- ・住み続けたいまちづくりという点では、豊田市は戸建てで家を建てようと思うとかなり価格が高く、ハードルになっている。
- ・市民意識調査の中で、利用しやすい公共交通等、歩きや自転車での移動がしやすいことを希望する意見が多い。移動については、まちづくりと同時に考えていくことが必要。
- ・暮らしについては、密にならず、地域分散型での活動拠点の充実が求められていくと感じる。
- ・当たり前だったことが、無くてよくなってしまふと、戻しようがなくなってくる。触れ合いやつながりを大切にするという地域社会を維持するためには、日ごろの地域での活動や地域行事が大きく影響しているかもしれない。
- ・コロナ禍の中で、顔を合わせて回覧物を渡す、会ったら声掛けするなど、当たり前になっていたことができなくなってくる。そうした場合、本当に地域のまちづくりというのが進めていけるのか悩ましい。また、それぞれの地域・地区で行うことはそれぞれで判断となっており、どう対応すべきか苦慮している。入院される人もおり、市内の病床が確保できているのかも心配。
- ・外出を控える状態がある一方で、リモートなど、自宅にいながらいろいろなことができる暮らし方もある。こうした暮らしが成立して、かつ居心地がいいとなってしまうと、これからの地域社会、まちがどうなるのか。まちづくりそのものがどういう方向になっていくのか懸念される。
- ・在宅勤務については社内のルールを取り払い、正式に制度化してきた。それにより、介護しながらでも働けるようになったなど、社内で評価を得ている。
- ・社屋については、必要なだけ残すとか、サテライトオフィスによる働く場所の

選択など、様々なことをミックスしていくような形が今後出てくる可能性がある。

- ・リモートの課題としては、指導や育成のするために厳しいことを言った後のフォローがしづらい点。人柄が分からない中で難しい部分もあるが、そういったところを払拭していきながら、リモートは進めていくことが大切。より生産性の上がる仕事の仕方、プライベートとの両立など、働き方についてはいろいろな可能性がある。

- ・デジタル化については、テレワークの場合、自治体はセキュリティが厳重でメールを送ることもままならない。また、感染者の情報のやり取りもファクスでやり取りしているという話も聞く。少なくともそうしたことはデジタル化で何とかできないかを感じる。

- ・自動車産業の構造として、ガソリン車から電気自動車、それから水素自動車に変わり、自動運転技術もずっと変わってきている。豊田市で研究開発、生産までする拠点、新しい部品も豊田市で生産できるような施策が必要。

- ・ものづくりはこの土地、地域にどう残すかが大切。

- ・交通事故が非常に多い。意識の向上だけでなく、防犯カメラなどでの抑止など、何としてでも減らすことが必要。

- ・高齢者による事故増加、免許の返納に対して、公共交通の利便性向上はしっかりやっていくことが必要。

- ・少子高齢化、高齢者が増加する中で、労働力をどのように確保していくか、計画の中で整理されるとよい。

- ・新型コロナに関して、ケアの現場は密を伴う業務になる。現場の事業所が停止せざるを得ないとなったときの、福祉現場と医療の連携を今のうちに検討することが必要。

- ・ケアの人材定着は大きな課題。やりがいはあるが、子育てや住宅の確保など、福利厚生部分が不安材料になっている。大きな法人なら福祉厚生がしっかりしているが、小さな法人では厳しい。今後どこの自治体も厳しくなってくるため、対策が必要。

- ・資料の中で、出生の人数は年々減少となっており、子育てに対する金銭的な支援は企業や自治体がしっかりやっていくことが必要。

- ・豊田市はグローバル企業があり、多様な社会経験がある人材がいることが強みであり、そうした人達を活用できるとよい。

- ・市民による起業やコミュニティビジネスをしたいと思っている人を税制面や事務的な点をサポートする仕組みを整えられるとよい。
- ・豊田市の農業について、後継者がいないからやめるという話が出ている。一人の力ではやれる面積は限られるので、核となるところで動かしていくことが必要。
- ・市内の都市部には人が増えても、中山間地は減っている。中山間地の自然をどう保全していくかを考えていくことが必要。
- ・地元のは地元で買い支えるという雰囲気づくりが大切。
- ・たすけあいプロジェクトのような見守りや交通手段の仕組みづくり、制度づくりを進めていけるとよい。
- ・新型コロナにより、人口密度、建蔽率、容積率など、どうしてくのかはこれからの議論になる。

(以上)